

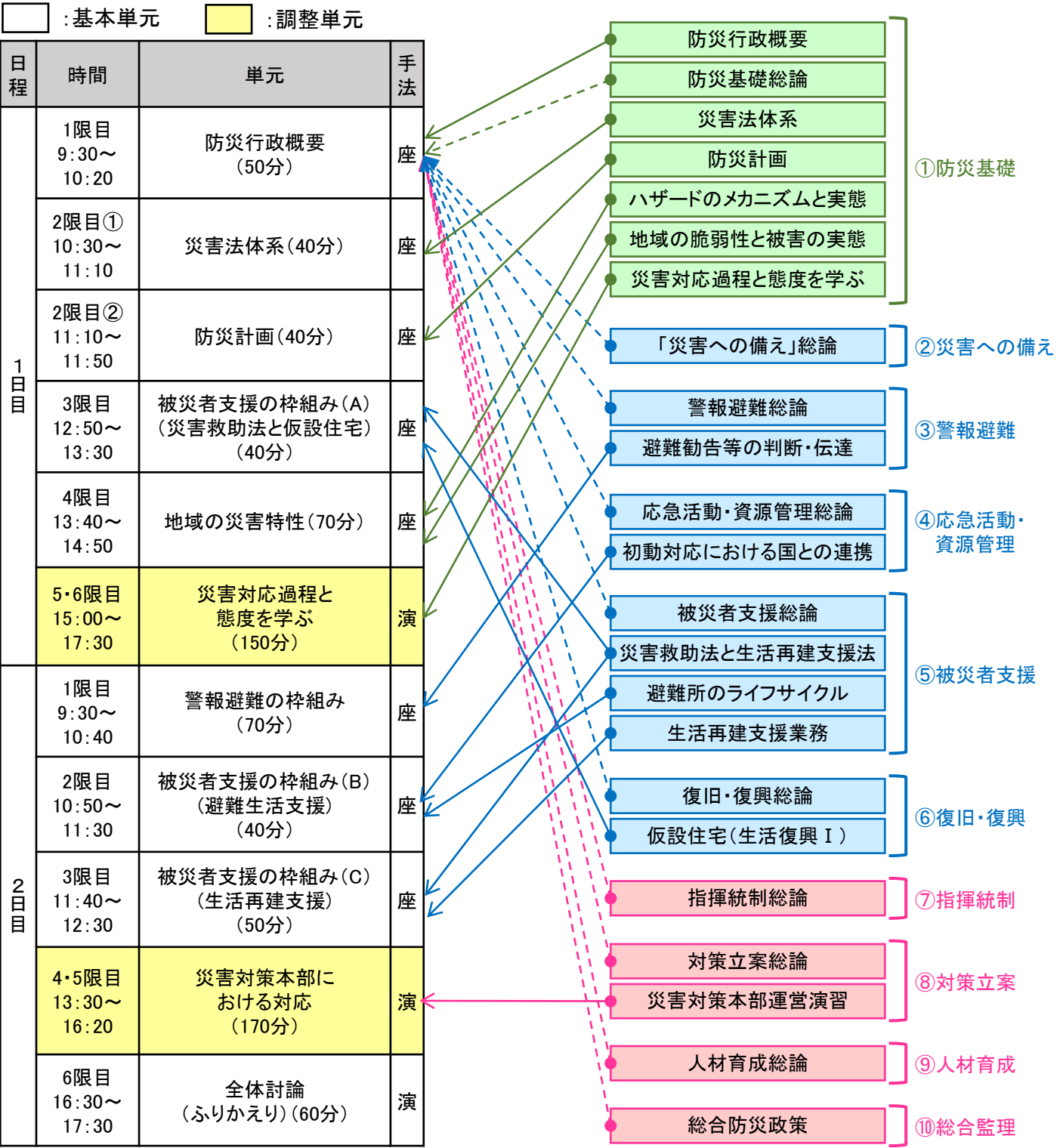
地方プログラム（素案）の作成の考え方

■ 地域研修の基本カリキュラムと有明の丘研修の単元の関係

● 地域研修の基本カリキュラムと有明の丘研修の単元の関係は下図の通り。

地域研修 基本カリキュラム

有明の丘研修



地域研修の基本カリキュラムと有明の丘研修の単元の関係

■ 地方プログラム（素案）を作成してわかったこと

- 地方プログラム(素案)を作成することによって、明らかになった課題と対応の方向性を下記にまとめる。

(1) 課題

- 今年度の地域研修で、研修指導要領(素案)のどの知識が講義されているかを明らかにしたところ、全ての知識が講義されているわけではなかった。
- 地域研修の講義時間に制限があることから、研修指導要領(素案)の全ての知識を十分に講義するには時間が足りない。
- そのため、地域研修の研修指導要領として適切な内容が何かを検討し、必要に応じて見直す必要がある。
- また、研修指導要領の見直しに合わせて、確認テスト・標準テキストも見直す必要がある。

(2) 方向性

①研修指導要領

- 地域研修版 研修指導要領(素案)(参考資料6)を実施主体に提供し、地域研修で講義してほしい内容を実施主体に選択してもらってはどうか。
また、選択してもらった内容を基に、講師と講義内容を調整してはどうか。

②確認テスト

- 実施主体が選択した講義の範囲に合致する確認テストを再選定してはどうか。
- 再選定の結果、テストの問題数が足りない場合は、新しく確認テストの問題と解説を作成してはどうか。

③標準テキスト

- 標準テキストのうち、基本カリキュラムに含まれる内容を明らかにして実施主体に提供し、研修指導要領からの選択時の参考としてもらってはどうか。

④地域プログラム全体

- 研修指導要領、確認テスト、標準テキストの関係とそれぞれの見方がわかるものを実施主体に提供し、地域研修で講義される内容の把握や、研修指導要領からの講義内容の選定時の参考にしてもらってはどうか。

赤字: 前回からの修正箇所

基本カリキュラムの考え方

- 地域研修(仮称)の「基本カリキュラム」は、有明の丘研修を圧縮し、「防災基礎」を地域の災害特性に置き換えたものとする。
- 基礎能力の向上を図るために、自治体職員として理解しておくべき防災行政に係る基本的な枠組みについて学ぶ**基本単元は実施を原則とするが、学習目標が達成できると認められる範囲で応募団体の要望に柔軟に対応。**(背景:黄)
- それ以外の単元(演習)は、地域の希望に応じて変更するなど調整可能とする。

基本カリキュラム(案)

■ : 基本単元 □ : 調整単元

有明の丘研修 コース

日程	時間	単元	手法
一日目	9:15~9:30	オリエンテーション	
	1限目 9:30~10:45	防災行政概要 (75分)	座
	2限目 10:55~11:40 11:40~12:25	災害法体系(45分) 防災計画(45分)	座
	3限目 13:25~14:40	地域の災害特性 (75分) ※調整可(地域に応じた内容で実施)	座
	4限目・5限目 14:50~17:30	災害対応過程と 態度を学ぶ (150分+10分休憩) ※調整可	演
二日目	1限目 9:30~10:40	警報避難の枠組 (70分)	座
	2限目 10:50~12:00	被災者支援の枠組み(1) (災救法と避難生活支援) (70分)	座
	3限目 13:00~14:10	被災者支援の枠組み(2) (仮設住宅と生活再建支 援)(70分)	座
	4限目 14:20~16:30	災害対策本部に おける対応 (120分+10分休憩) ※調整可	演
	5限目 16:40~17:30	全体討論(ふりかえり) (50分)	演

